

JESCO における PCB 廃棄物の長期的な処理の見通しについて

国の PCB 廃棄物処理基本計画においては、PCB 廃棄物の数量について公表され、今後の処理の進捗により、PCB 廃棄物の発生量、保管量及び処分量の見込みは常に変動することから、毎年度見直し、その結果を公表することとされている。

また、基本計画における JESCO の役割として、各拠点的広域処理施設における計画的処理完了期限までの高濃度 PCB 廃棄物の処理の見通しについて毎年度公表することとされ、また処分期間内又は特例処分期限日までの処分委託が円滑かつ迅速に行われるよう、長期的な処理の見通しを明らかにすることとされた。

JESCO においては、これを受けて長期処理の見通しについて検討を行い、各事業部会等において順次議論をいただいたところである。

1. 長期的な処理の見通しの作成の考え方

JESCO に登録された数量の整理や PCB 特措法・電気事業法で届出済みながら JESCO へ未登録の数量等を求めることなどにより、事業毎、項目毎に計画的処理完了期限までの処理の見通しを整理した。(別紙1)

なお、各事業の計画的処理完了期限が近づき、より精度の高い情報が必要となったことから、PCB 特措法・電気事業法の届出済みながら JESCO へ未登録の数量等の精度の低いデータについて、各地方環境事務所や各都道府県市に確認作業を依頼し、より精度の高いデータにしているところ。

JESCO 登録との突合データ等については、各都道府県市と共有化しており、処理推進に資する未処理廃棄物一覧の作成のための基データとして活用され、特に豊田事業においては、エリア自治体と協働し、より実態に合わせることを目的に、本年度より長期処理計画の策定方法を見直した。

2. 見通しについての報告状況

○北九州事業

平成 30 年 7 月 19 日 北九州 PCB 処理事業部会にて報告

平成 30 年 7 月 25 日 北九州市 PCB 処理監視会議にて報告

○豊田事業

平成 31 年 2 月 1 日 豊田 PCB 処理事業部会にて報告

平成 31 年 2 月 15 日 豊田市 PCB 処理安全監視委員会にて報告

○東京事業

平成 30 年 10 月 29 日 東京 PCB 処理事業部会にて報告

平成 30 年 11 月 15 日 東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会にて報告

○大阪事業

平成 31 年 3 月 12 日 大阪 PCB 処理事業部会にて報告

○北海道事業

平成 31 年 3 月 4 日 北海道 PCB 処理事業部会にて報告

平成 31 年 3 月 14 日 北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議にて報告

3. 各事業ごとの見通しの状況（別紙 1）

事業名	処理完了	概況
北九州事業	計画的処理完了期限内に終了する見通し。	安定器等については、計画的処理完了期限まで処理を行う見通しトランス及びコンデンサ等の 1 期事業については、本年度が計画的処理完了期限となっている。 注）詳細な見通しについては資料 1 に記載。
豊田事業	計画的処理完了期限内に終了する見通し。	トランス、コンデンサとも、計画的処理完了期限前年まで処理を行う見通しである。 今回の計画から長期処理計画の策定方法を見直し ・ PCB 特措法届出済かつ J E S C O 未登録の廃棄物の処理予定量や今後の掘り起し見込み量をエリア 4 県 7 市が算出 ・ 登録事業者の意向を踏まえ処理予定を策定 これらを組み合わせ、エリア全体及び各自治体の長期処理計画を策定した。
東京事業	計画的処理完了期限内に終了する見通し。	大型、小型トランスについては、計画的処理完了期限まで処理を行う予定であるが、それ以外のトランスは、計画的処理完了期限の 1 年前には終了する見通し。コンデンサについては、計画的処理完了期限まで処理を行う見通し
大阪事業	計画的処理完了期限内に終了する見通し。	小型トランス、コンデンサについては計画的処理完了期限まで処理を行う見通し。大型トランスは計画的処理完了期限の 1 年前には終了する見通し。地域間移動で受け入れる豊田エリアの車載トランスは 30 年度で終了。
北海道事業	計画的処理完了期限内に終了する見通し。	トランスについては、車載トランスが計画的処理完了期限の 3 年前その他のトランスも前年には終了する見通し。コンデンサ、安定器等については、計画的処理完了期限まで処理を行う見通し。

		JESCO計画											
No.	項目	(単位)*8	H29年度までの 処理量(実績)	処理対象数 量*(1) (予定)	H30年度 (予定)	H31年度 (予定)	H32年度 (予定)	H33年度 (予定)	H34年度 (予定)	H35年度 (予定)	H36年度 (予定)	H37年度 (予定)	H38年度 (予定)
1. 北九州事業所 長期処理の見通し*1			▽ 計画的処理完了期限 △ 事業終了準備期間										
トランス等	大型トランス(2t以上)	台	465	3	3								
	小型トランス	台	1,936	8	8								
	車載トランス	台	322										
	車載トランス(豊田分)	台	94	4	4								
コンデンサ等	自エリア分	台	50,372	1,760	1,760								
	東京エリア分	台	6,106	819	819								
	小型機器(3kg以上10kg未満)	台	315										
安定器(kg)	自エリア分	kg	2,588,020	164,000	129,000		35,000						
	(2.12kg/個で換算)*7	(個)	(1,220,764)	(77,358)	(60,849)		(16,509)						
	大阪・豊田エリア分	kg	1,216,315	2,676,000	655,000		855,000	890,000	276,000				
	(2.12kg/個換算)*7	(個)	(573,733)	(1262264)	(308962)		(403302)	(419811)	(130189)				
小型コンデンサ等(搬入荷姿)(kg)*2	自エリア分	kg	124,797										
	(0.22kg/個で換算)*7	(個)	(567259)										
	大阪・豊田エリア分	kg	103923										
	(0.22kg/個で換算)*7	(個)	(472377)										
その他汚染物等(kg)	自エリア分	kg	315,321										
	大阪・豊田エリア分	kg	78,190										
2. 豊田事業所 長期処理の見通し*1			▽ 計画的処理完了期限 △ 事業終了準備期間										
トランス等		台	2,107	350	97	144	90	19					
コンデンサ等		台	60,235	13,396	6,712	4,395	1,534	755					
PCB油類		本	638	857	280	229	196	152					
保管容器		kg	110,518	1,993	0	664	664	665					
安定器(kg)	豊田エリア分	kg	1,486	1,586	540	439	586	21					
	(2.12kg/個換算)*7	(個)	686,687										
			(323,909)										
小型コンデンサ等	豊田エリア分	kg	14,852										
	(0.22kg/個で換算)*7	(個)	(67,509)										
その他汚染物等(kg)	豊田エリア分	kg	40,516										
3. 東京事業所 長期処理の見通し*1			▽ 計画的処理完了期限 △ 事業終了準備期間										
トランス等	超大型トランス(20t超)	台	21	8	1	2	3	2					
	超大型トランス(北海道分)	台	3	2	1	1							
	大型トランス(5t超20t以下)	台	262	38	27	5	2	2	2				
	中型トランス(1t超5t以下)	台	1,512	93	41	26	26						
	小型トランス	台	1,656	343	52	28	93	88	82				
	車載トランス	台	10	0									
コンデンサ等	車載トランス(豊田分)	台	16	14	8	6							
	超大型コンデンサ(200kg超)	台	380	92	25	27	24	8	8				
	大型コンデンサ(20kg超200kg以下)	台	45,633	17,758	5,687	4,663	3,468	3,691	249				
	小型コンデンサ(20kg以下)	台	6,160	3,021	529	729	829	904	30				
	コンデンサ(北九州で処理)	台	6,106	819	819								
	超小型(3kg以上10kg未満)	台	3,756	2,869	1,161	419	430	430	429				
安定器(kg)	東京エリア分	kg	980,203										
	(2.12kg/個換算)*7	(個)	(462,360)										
極小型コンデンサ等	東京エリア分	kg	5,458										
	(0.22kg/個で換算)*7	(個)	(24,809)										
その他汚染物等(kg)	東京エリア分	kg	29,242										
PCB油(t)		t	33	315	15	35	149	116					
運転廃棄物(t)	廃粉末活性炭(北九州・大阪分)	t	57	221	43	60	60	59					
4. 大阪事業所 長期処理の見通し*1			▽ 計画的処理完了期限 △ 事業終了準備期間										
トランス等	大型トランス(2.5t以上)	台	2,604	46	23	12	11						
	小型トランス	台	2,198	182	50	50	50	32					
	車載トランス	台	93	1	0	1							
	車載トランス(豊田分)	台	24	6	6								
	コンデンサ	台	62,456	7,681	2849	2090	2064	678					
コンデンサ等	特殊コンデンサ(北海道分)	台	70	430	0	200	150	80					
	特殊コンデンサ(豊田分)	台	116	384	120	120	113	31					
	PPコンデンサ(豊田で処理)	台	4,697	290	290								
	小型機器(3kg以上10kg未満)	kg	6,617										
安定器(kg)	大阪エリア分	kg	529,628										
	(2.12kg/個換算)*7	(個)	(249,825)										
小型コンデンサ等	大阪エリア分	kg	89,071										
	(0.22kg/個換算)*7	(個)	(404,868)										
その他汚染物等(kg)	大阪エリア分	kg	37,674										
5. 北海道事業所 長期処理の見通し*1			▽ 計画的処理完了期限 △ 事業終了準備期間										
トランス等	大型トランス(2.6t超)	台	310	195	70	66	50	9					
	大型トランス(東京行)	台	3	2	1	1							
	小型トランス	台	3,008	530	131	110	149	140					
	車載トランス	台	356	47	44	3							
コンデンサ等	コンデンサ	台	55,956	9,159	2,665	2,400	2,400	1,300	394				
	炭化コンデンサ(大阪行)	台	70	350	0	200	150						
安定器(kg)	自エリア分	kg	2,593,593	830,000	274,000	300,000	256,000						
	(2.12kg/個換算)*7	(個)	(1,223,393)	(391,509)	(129,245)	(141,509)	(120,755)						
	東京エリア分	kg	980,203	3,734,000	597,000	550,000	594,000	850,000	850,000	293,000			
	(2.12kg/個換算)*7	(個)	(462,360)	(1,761,321)	(281,604)	(259,434)	(280,189)	(400,943)	(400,943)	(138,208)			
小型コンデンサ等(搬入荷姿)(kg)*2	自エリア分	kg	84,465										
	(0.22kg/個換算)*7	(個)	(383,932)										
その他汚染物等(kg)	東京エリア分	kg	5,458										
	(0.22kg/個換算)*7	(個)	(24,809)										
その他汚染物等(kg)	自エリア分	kg	140,575										
	東京エリア分	kg	29,242										
			△ 計画的処理完了期限										

*1 各事業所の計画は、事業部会、監視会議で提示した長期的な処理の見通しを記載している。なお、北九州事業のトランス、コンデンサについては30年度の見通しを記載

*2 小型コンデンサ等については、1台ごとにJESCO登録されているものと、ある程度のまとまり(搬入荷姿)で登録されているものの2区分があることから、区分して記載している。

*3 北九州事業においては、「コンデンサ」として大型コンデンサ等及び小型コンデンサ等と記載しており、本表では「大型コンデンサ等:自エリア分」に一括して記載している。

▽

△

*5 大阪事業の長期処理計画においては、「コンデンサ」に小型機器を含めて記載している。

*6 北海道事業の長期処理計画においては、「安定器及び汚染物等」として安定器、小型コンデンサ等(搬入荷姿)及びその他汚染物等の処理計画を記載しており、本表では「安定器」の欄に一括して記載している。

*7 JESCOの実績、登録は、重量で記録されており、個数は重量に換算係数を乗じた値。換算係数は、環境省の見込量算出時と同じ、安定器 2.12kg/個 小型電気機器 0.22kg/個を使用している。

*8 単位はJESCOに登録時に使用する単位を使用

北九州 PCB 処理事業所 長期処理計画について

(北九州 PCB 処理事業部会、北九州市 PCB 処理監視会議資料抜粋)

この計画は、J E S C O 北九州 P C B 処理事業所において、P C B 廃棄物を期限内に確実に処理するため、長期的な処理の計画を定めるものである。

I 処理対象 P C B 廃棄物

1 北九州事業エリアの処理対象物

中国、四国、九州・沖縄地域（岡山以西 17 県）の全ての P C B 廃棄物が対象。

平成 30 年度以降の処理対象量の見込みは以下のとおり。なお、平成 30 年 3 月末までに既に処理施設に搬入された台数も含まれます。

- | | |
|-------------|----------|
| ① 大型変圧器 | 2 台 |
| ② 小型変圧器 | 6 台 |
| ③ コンデンサー | 1, 233 台 |
| ④ 安定器及び汚染物等 | 164 トン |

2 北九州事業エリア外の処理対象物

近畿、東海、南関東地域（14 都府県）の一部の P C B 廃棄物が対象。

平成 30 年度以降の処理対象量の見込みは以下のとおり。なお、平成 30 年 3 月末までに既に処理施設に搬入された台数も含まれます。

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ① 車載変圧器（豊田事業エリア） | 4 台 |
| ② コンデンサー（東京事業エリア） | 767 台 |
| ③ 安定器及び汚染物等（大阪及び豊田事業エリア） | 約 2, 676 トン |

II 処理進捗状況及び処理計画

これまでの処理進捗状況と上記の処理対象台数を踏まえた年度ごとの処理計画を策定することにより、期限内の処理を確実に実施する。

1 処理進捗状況

北九州事業エリアの処理対象物については、平成 30 年 3 月末現在で変圧器 99.8%、コンデンサー 97.7%、安定器及び汚染物等 94.4% の処理が完了している。

北九州事業エリア外の処理対象物については、車載変圧器 95.9%、コンデンサー 88.9%、安定器及び汚染物等 35.0% の処理が完了している。

2 年度ごとの処理計画

変圧器・コンデンサーは平成30年度末まで、安定器及び汚染物等については平成33年度末までに処理を行う。

区分		(参考) 平成29年度 処理量の 実績	平成30年度以降の 処理量の見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
大型変圧器		34台	2台	2台			
小型変圧器		32台	6台	6台			
車載変圧器	豊田エリア	46台	4台	4台			
コンデンサー	北九州エリア	2,473台	1,233台	1,233台			
	東京エリア	2,326台	767台	767台			
安定器及び 汚染物等	北九州エリア	177 トン	164 トン	129 トン	35 トン		
	大阪・豊田エリア	549 トン	約2,676 トン	655 トン	855 トン	890 トン	276 トン

豊田 PCB 処理事業所 長期処理計画について

(豊田事 PCB 処理業部会、豊田市 PCB 処理安全監視委員会 資料抜粋)

<長期処理計画の作成方法の変更>

従来の JESCO 豊田で作成していた長期処理計画は、JESCO 豊田の処理能力を基に処理能力に見合うだけの廃棄物が搬入されると仮定して年度毎の処理予定量を記載していました。

しかし、実際には保管事業所の都合もあり、それだけの量の廃棄物が搬入されない状況となっています。

こうした状況を踏まえ、長期処理計画をより実態に合った計画とするため、

- JESCO 豊田は、登録事業者の意向を踏まえ、4 県 7 市のエリアごとの処理予定量を算出しました。
- 4 県 7 市は、特措法や電事法の届出があるものの JESCO 登録が行われていない PCB 廃棄物の処理予定量や掘り起し見込量等を、各自治体が推計し算出しました。

これらを組み合わせ、平成 31 年度以降は 4 県 7 市全体及び各自治体の長期処理計画としてより実態に近い長期処理計画としました。

区分		平成30年度当初の未搬入量					平成30年9月30日現在				
		未搬入量(残存量)の内訳					処理計画(※8)				
		平成30年度当初のJESCO登録未搬入量(※1)	特措法届出・未登録(※2)	電事法届出・未登録(※3)	掘り起見込量(※4)		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
トランス類	350	270	49	0	31	97	144	90	19	—	
コンデンサ類	13,396	12,608	466	136	186	6,712	4,395	1,534	755(※9)	—	
PCB油類	本	857	456	401(※5)	—	—(※7)	280	229(※10)	196(※10)	152(※10)	—
	kg	1,993.1	—	1,993.1(※5)	—	—(※7)	0	664	664	665.1	—
保管容器	1,586	1,586	—(※6)	—	—(※7)	540	439	586(※11)	21(※12)	—	
【留意事項】											
※1 JESCO登録未搬入量は、H30年4月1日現在、JESCOに登録があるが、未搬入の量を記載。【搬入ベース】											
※2 特措法で届出されているが、JESCO未登録の量を記載。(平成29年3月末データ)											
※3 電事法で届出されているが、JESCO未登録の量を記載。(平成29年6月末届出)											
※4 各自治体で掘り起し調査の実績等から処理年度ごとに算出。 算定の例：県市による掘り起し調査の進捗状況と北九州地域の掘り起し率を基に以下の式で計算 各年度の回答事業者数 × 北九州事業地域の掘り起し率(変圧器:253台/204,440事業者=12%、コンデンサー:1,432台/204,440事業者=0.70%) 少数点は四捨五入											
※5 各自治体でJESCO登録情報と届出情報を突合し、JESCO登録がない数量を算出。											
※6 容器のみの保管事例が少なく、届出情報から保管容器の抽出が困難なため計上なし。											
※7 北九州地域の集計が無く、掘り起し調査で発見されることが稀であるため計上なし。											
※8 JESCO登録済みの未搬入廃棄物は、JESCOが把握している年度ごとの搬入予定量を計上し、JESCO登録が未だの廃棄物は、各自治体で処理年度ごとに配分。 配分の例：①特措法届出あり・JESCO未登録：平成31年度以降の3年間で平準化。 ②電事法届出あり・JESCO未登録：平成32年度以降の2年間で平準化。											
※9 JESCO登録事業場のうち交渉困難事業場のため、処理時期が未定のコンデンサ289台は平成33年度に配分。											
※10 大型金属容器7基に収納の処理困難PCB油について平成31年度:2基、平成32年度:3基、平成33年度:2基に配分。											
※11 処理困難物である泥状物が付着したスクラップ状ドラム缶547缶について平成32年度に配分。											
※12 JESCO登録事業場のうち交渉困難事業場のため、処理時期が未定の保管容器6箱について平成33年度に配分。											

東京 PCB 処理事業所 長期処理計画について

(2019.2.26 事業部会資料抜粋)

東京事業所での処理対象物の処理計画

1) 変圧器

①超大型変圧器

- ・2018年度は4台の超大型変圧器の処理が終了した。なお、2019年度は1台、2020年度は3台、2021年度は2台の超大型変圧器の処理を計画している。
- ・現時点で未処理の超大型変圧器には、現地抜油や部品取外しのみでは20t以下とはならないものや保管建物からの搬出ができないものもある。これらについては現地で気化溶剤循環抜油処理を行った後、現地解体を行う必要があるため、保有事業者に加え、対応可能な業者を交えて搬出計画を立案してすすめている。
- ・東京事業所では、2016年4月から気化溶剤循環抜油・現地解体を行った超大型変圧器2台の処理を開始している。

②大型変圧器

- ・変圧器については大型ものを先行させて処理することを基本としており、2018年度は1月末までには24台の大型変圧器の処理が終了した。残り14台を2021年度までに処理できるように検討している。

③中型・小型変圧器

- ・JESCO未登録の特措法届出193台、電気事業法届出1台、これらは小型変圧器と想定して処理対象物とした。

④車載変圧器

- ・東京事業エリアの車載変圧器10台の処理はすでに終了している。
- ・豊田事業エリア(浜松市)の車載変圧器は全て新幹線型である。2019年1月末までに豊田事業エリアから30台中24台を搬入し処理を行った。
- ・浜松市からの搬入に当たっては1台のトラックに2台の車載変圧器を搭載する。このため年度ごとの処理計画量は偶数台となっている。2018年度は8台処理を完了し、2019年度は残り6台の処理を計画している。

⑤変圧器油

- ・超大型変圧器からの現地抜油の処理は、北海道事業エリア(茨城県)のものを除いて2016年度に完了した。2018年度以降は大型変圧器からの抜油処理のみとなり、大幅に減少する見込みである。

変圧器の区分別(大きさ別)の処理計画

単位:台

区分	台数/ 累積進捗率	2017年度 までの処 理量*1	2018 年度 4-1月 実績	2018 年度 2-3月 見込	2018 年度 見込 *2	2018 年度 計画	2019	2020	2021	2022	合計 *3	累計	処理 対象 量*3
	台数	3,465	121	9	130	164	68	124	92	84	498	3,963	3,963
	累積進捗率	87%	90%	-	91%	92%	92%	96%	98%	100%	-	-	-
試運転	台数	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
超大型	東京	21	1	0	1	3	2	3	2	0	8	29	29
	北海道	3	1	0	1	1	1	0	0	0	2	5	5
	台数	24	2	0	2	4	3	3	2	0	10	34	34
	累積進捗率	71%	76%	-	76%	82%	85%	94%	100%	100%	-	-	-
大型	台数	262	25	2	27	32	5	2	2	2	38	300	300
	累積進捗率	87%	96%	-	96%	98%	98%	99%	99%	100%	-	-	-
中型	台数	858	34	7	41	33	26	26	0	0	93	951	951
	累積進捗率	90%	94%	-	95%	94%	97%	100%	100%	100%	-	-	-
小型	台数	2,279	52	0	52	87	28	93	88	82	343	2,622	2,622
	累積進捗率	87%	89%	-	89%	90%	90%	94%	97%	100%	-	-	-
車載	東京	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
	豊田	16	8	0	8	8	6	0	0	0	14	30	30
	台数	26	8	0	8	8	6	0	0	0	14	40	40
	累積進捗率	65%	85%	-	85%	85%	100%	100%	100%	100%	-	-	-

*1:2019年1月までの処理量を中間処理完了日(マニフェスト)ベースとした。試運転(大型1台、中型8台、小型7台)を含む。

*2:2018年度は1月までの実績に2~3月の計画を加えた見込みの数値である。

*3:JESCO未登録の194台は、小型変圧器で、2020~2022年度での処理を計画に加えている。

2) コンデンサー

①超大型コンデンサー

- 東京事業エリアの民間企業が保有する超大型コンデンサーの多くは2015~2016年度に北九州事業所で処理されることとなっていたが、当該事業所が2015年度にベンゼン排出事故で半年間停止したため、2018年度まで延長された。

②大型コンデンサー

- JESCO登録されている東京都内のコンデンサーの処理進捗率は2014年度末で90%を超えたため、2015年度からコンデンサー処理対象の主体を神奈川県・千葉県・埼玉県の3県に移している。
- 2015~2017年度は多量保管事業者の多くが北九州に搬出するため、東京事業所では2015年度から少量保管事業者にターゲットを絞り、搬入半年前に行う少量保管事業者向け説明会を各県ごとに年8~10回会場を変えて開催している。2018年度以降もこうした対応を継続している。
- JESCO未登録の特措法届出2,953台、電気事業法届出269台を大型コンデンサーと想定して処理対象物とした。

③小型・超小型コンデンサー

- ・小型・超小型コンデンサーの処理については、現状の処理台数を維持できるように集荷に努める。

コンデンサーの区別の処理計画

単位:台

区分	台数/ 累積進捗率	2017年 度まで の処理 量*1	2018 年度 4-1月 実績	2018 年度 2-3月 見込	2018 年度 見込 *2	2018 年度 計画	2019	2020	2021	2022	合計 *3	累計	処理 対象 量*4
	台数	61,557	7,269	953	8,222	7,431	6,792	4,753	5,035	718	25,520	87,077	87,077
	累積進捗率	71%	79%	-	80%	79%	88%	93%	99%	100%	-	-	-
東京 事業所	台数	55,338	6,450	953	7,403	6,612	5,841	4,753	5,035	718	23,750	79,088	79,088
	累積進捗率	70%	78%	-	79%	78%	87%	93%	99%	100%	-	-	-
	試運転分	113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113	113
北九州 事業所	台数	6,106	819	0	819	819	0	0	0	0	819	6,925	6,925
	累積進捗率	88%	100%	-	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-	-	-
北海道	台数	0	0	0	0	0	951	0	0	0	951	951	951
超大型	東京処理分	374	21	4	25	55	27	24	8	8	92	466	466
	累積進捗率	80%	85%	-	86%	92%	91%	97%	98%	100%	-	-	-
	北九州処理分	167	38	0	38	38	0	0	0	0	38	205	205
大型	東京処理分	45,410	4,817	870	5,687	5,460	4,663	3,468	3,691	249	17,758	63,168	63,168
	累積進捗率	72%	80%	-	81%	81%	88%	94%	100%	100%	-	-	-
	北九州処理分	4,835	425	0	425	425	0	0	0	0	425	5,260	5,260
小型	東京処理分	5,892	496	33	529	647	729	829	904	30	3,021	8,913	8,913
	累積進捗率	66%	72%	-	72%	73%	80%	90%	100%	100%	-	-	-
	北九州処理分	974	320	0	320	320	0	0	0	0	320	1,294	1,294
超小型	東京処理分	3,655	1,115	46	1,161	440	419	430	430	429	2,869	6,524	6,524
	累積進捗率	56%	73%	-	74%	63%	80%	87%	93%	100%	-	-	-
	北九州処理分	130	36	0	36	36	0	0	0	0	36	166	166
極小型 *5	東京処理分	7	1	0	1	10	3	2	2	2	10	17	17
	累積進捗率	41%	47%	-	47%	100%	65%	76%	88%	100%	-	-	-
	北九州処理分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*1: 2019年1月までの処理量を中間処理完了日(マニフェスト)ベースとした。

*2: 2018年度は1月までの実績に2~3月の計画を加えた見込みの数値である。

*3: JESCO未登録の3,222台は、大型コンデンサーで、2020~2022年度での処理を計画に加えている。

*4: 東京事業所で処理する対象物を集計したもの。

*5: 北海道事業所で処理する極小型コンデンサーは、総重量555kg、1kg以下のコンデンサーでドラム缶2缶分、2019年度処理予定である。それ以外に極小型コンデンサー10台(神奈川県)は、東京事業所で2018年度に処理するとして記載した。

3) 廃PCB油

- ・JESCO に登録されている PCB 油のうちの約 80%を占めているリン含有 PCB 油の処理については、リン含有 PCB 油を水熱分解設備で処理した場合、処理後の排水中のリンが下水排除基準を超える恐れがある。また、リン含有 PCB 油に含まれるリン酸が PCB の水熱酸化分解時にカルシウム・鉄・アルミ等の金属と結合して固い結晶体を作って水熱酸化分解設備に悪影響を与えることが懸念されるため、その対応として 2014 年 12 月より保管事業者と共同してリン除去前処理技術の開発を行ってきた。2017 年度は、実証試験を行い、2019 年度に実機設備を設置して 2020 年 1 月から本格的処理に取り組む予定としている。

4) 粉末活性炭

- ・2014 年の「PCB 廃棄物処理基本計画」の改訂により北九州並びに大阪事業所から受け入れて処理するものである。
- ・2015 年度よりスラリー化設備を増設し、同年より北九州並びに大阪事業所から受入れ・処理を開始した。
- ・同年度からの処理では、水熱反応装置の温度不安定が生じ、処理量を落として対応してきたが、2017 年度にこれを改善する改修を実施し、7 月より試運転を行い、8 月末より処理を再開した。

廃PCB油と廃粉末活性炭の処理計画

単位: kg

種別・区分		2017年度までの処理量	2018年度4-1月実績	2018年度2-3月見込	2018年度見込*3	2018年度計画	2019	2020	2021	2022	合計	累計	処理対象量
廃PCB油*1	重量	26,850	11,773	2,878	14,651	8,915	34,598	149,446	116,424	0	315,119	341,969	341,969
	累積進捗率	8%	11%	-	12%	10%	22%	66%	100%	100%	-	-	-
廃粉末活性炭	北九州	5,988	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,988	5,988
	大阪	32,754	38,339	5,040	43,379	43,500	59,532	59,532	58,815	0	221,258	254,012	254,012
	受入	38,742	38,339	5,040	43,379	43,500	59,532	59,532	58,815	0	221,258	260,000	260,000
	北九州	5,988	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,988	5,988
	大阪	21,855	26,877	12,920	39,797	49,504	59,532	59,532	59,532	13,764	232,157	254,012	254,012
	スラリー量*2	27,843	26,877	12,920	39,797	49,504	59,532	59,532	59,532	13,764	232,157	260,000	260,000
	累積進捗率	11%	21%	-	26%	30%	49%	72%	95%	100%	-	-	-

*1: 対象数量にはリン含有PCB油287,629kg(登録油量257,963kg×比重1.115)を含む。

*2: 廃粉末活性炭のスラリー量は活性炭量で表す。

*3: 2018年度は1月までの実績に2~3月の計画を加えた見込みの数値である。

大阪 PCB 処理事業所の長期処理計画について

(大阪 PCB 処理事業部会資料抜粋)

JESCOでは、PCB廃棄物を期限内に確実に処理するため、長期処理計画を作成しています。今回平成30年3月末時点での処理対象量を基に見直しを行いました。大阪PCB処理事業所における同計画は以下のとおりです。

1. 処理対象PCB廃棄物

平成30年度以降の処理対象量は以下のとおりです。

(1) 大阪事業エリアの処理対象物

対象エリアである近畿2府4県のPCB廃棄物が対象

(ただし、PPコンデンサー(290台)は地域間移動により豊田PCB処理事業所で処理)。

- | | |
|------------|--------|
| ① 大型トランス | 46台 |
| ② 小型トランス | 182台 |
| ③ 車載トランス | 1台 |
| ④ コンデンサー | 7,681台 |
| ⑤ PPコンデンサー | 290台 |

(2) 大阪事業エリア外の処理対象物

北海道、豊田事業エリア内の一部のPCB廃棄物が対象

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ① 車載トランス(豊田事業エリア) | 0台(平成30年度で処理完了) |
| ② 特殊コンデンサー(北海道事業エリア) | 430台 |
| ③ 特殊コンデンサー(豊田事業エリア) | 384台 |

2. 処理進捗状況及び処理計画

(1) 処理進捗状況

大阪PCB処理事業所において、平成31年1月末現在でトランス94%、コンデンサー91%の処理が完了している。

(2) 年度毎の処理計画

大阪事業エリアの処理対象物の処理進捗状況を踏まえ、施設の安全安定操業を確保しながら、計画的処理完了期限である平成33年度末迄に処理を完了させる。年度毎の処理計画は表1のとおりです。

表1 大阪PCB処理事業所における長期処理計画 (台)

区分		平成29年度 末累計(a)	平成30年度以降 処理量(b)	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	総計(a+b)	
トランス類	大型トランス	295	46	23	12	11	0	341	
	小型トランス	2,185	182	50	50	50	32	2,367	
	車載	大阪エリア	92	1	0	1	0	0	93
		豊田エリア	24	6	6	0	0	0	30
コンデンサー類	コンデンサー	70,434	7,681	2,849	2,090	2,064	678	78,115	
	特殊コンデンサー (北海道エリアから)	70	430	0	200	150	80	500	
	特殊コンデンサー (豊田エリアから)	116	384	120	120	113	31	500	
PPコンデンサー	豊田事業所で処理	4,697	290	290	0	0	0	4,987	

北海道 PCB 処理事業所 長期処理計画について

(北海道 PCB 処理事業部会、北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議 資料抜粋)

今年度に策定した長期処理計画は以下のとおりです。

1. 当初施設 (変圧器、コンデンサー等)

(1) 処理対象 PCB 廃棄物

(平成 30 年 8 月 6 日時点の登録量、見込み量から平成 31 年度以降の処理対象物量を想定)

① 北海道事業エリアの処理対象物のうち北海道 PCB 処理事業所で処理するもの

(ア) 大型トランス 125 台

(イ) 小型トランス 399 台

(ウ) 車載トランス 3 台

(エ) コンデンサー 6,494 台

② 北海道事業エリアの処理対象物のうち他事業所で処理するもの

(ア) 大型トランス 1 台

(イ) コンデンサー (炭化品) 350 台

(2) 処理計画

	計画的処理完了期限→					事業終了準備期間→			(台)
	H30年度 見込み	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	
大型トランス	70	66	50	9					195
同上(東京事業所へ)	1	1							2
小型トランス	131	110	149	140					530
車載トランス	44	3							47
コンデンサー	2,665	2,400	2,400	1,300	394				9,159
同上(大阪事業所へ)	0	200	150						350

2. 増設施設（安定器及び汚染物等）

(1) 処理対象 PCB 廃棄物

（平成 31 年 2 月 20 日時点の登録量から平成 31 年度以降の処理対象物量を想定）

① 北海道事業エリアの処理対象

安定器及び汚染物等 556 トン

② 他事業エリアの処理対象物のうち北海道 PCB 処理事業所で処理するもの

東京事業エリアの安定器及び汚染物等 3,137 トン

(2) 処理計画

区分	H30年度見込み	計画的処理完了期限⇒					事業終了準備期間⇒		合計
		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	
安定器・汚染物等	274	300	256	0	0	0	0	0	830
同上(東京エリアから)	597	550	594	850	850	293	0	0	3,734
合計	871	850	850	850	850	293	0	0	4,564

※事業所内仕分けを見込む

(3) 早期処理の促進に向けて

安定器の早期処理を促進するため、保管事業者における仕分けの徹底をお願いするとともに、本年度から JESCO の事業所内においても仕分けを実施しています(資料 4-2)。引き続き、仕分け対象の選別精度の向上等さらなる仕分けの促進に取り組んでまいります。

さらに安定器の処理にあたっては、仕分けの効率化に加え、更なる処理促進策として安定器をプラズマ処理が必要な部位とそれ以外の部位に分け、プラズマ処理の効率化・減量化を図ることを目的とした調査等を行っています。その結果を踏まえ、今後、実装に向けた具体的な検討に着手させていただきたいと考えています。

なお、上記のほか、処理が困難な PCB 廃棄物に関する技術的な検討についても恒常的に行っていく予定です。